

米国 弱すぎず強すぎないインフレ（17年8月消費者物価）

: 2017年9月15日（金）

～下げ止まり確認～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

消費者物価 (Consumer Price Index)

	総合		コア		エネルギー	消費者物価					商品 コア	サービス コア
	前月比	前年同月比	前月比	前年同月比		食料品	住宅	アパレル	運輸	医療		
16/08	+0.205	(+1.1)	+0.261	(+2.32)	▲0.0	+0.0	+0.3	+0.2	▲0.1	+0.9	+0.1	+0.3
16/09	+0.257	(+1.5)	+0.119	(+2.21)	+2.4	▲0.0	+0.3	▲0.5	+0.8	+0.2	▲0.1	+0.2
16/10	+0.285	(+1.6)	+0.147	(+2.14)	+2.5	▲0.0	+0.3	+0.2	+1.0	+0.1	+0.0	+0.2
16/11	+0.209	(+1.7)	+0.182	(+2.11)	+1.0	▲0.0	+0.2	▲0.3	+0.6	+0.1	▲0.2	+0.3
16/12	+0.257	(+2.1)	+0.220	(+2.20)	+1.2	▲0.0	+0.3	▲0.4	+0.8	+0.2	+0.0	+0.3
17/01	+0.551	(+2.5)	+0.308	(+2.27)	+4.0	+0.1	+0.3	+1.4	+2.2	+0.2	+0.4	+0.3
17/02	+0.122	(+2.7)	+0.206	(+2.22)	▲1.0	+0.2	+0.3	+0.6	▲0.5	+0.1	▲0.0	+0.3
17/03	▲0.288	(+2.4)	▲0.122	(+2.00)	▲3.2	+0.3	+0.1	▲0.7	▲1.4	+0.1	▲0.3	▲0.1
17/04	+0.167	(+2.2)	+0.071	(+1.88)	+1.1	+0.2	+0.3	▲0.3	+0.1	▲0.2	▲0.2	+0.1
17/05	▲0.128	(+1.9)	+0.063	(+1.73)	▲2.7	+0.2	+0.2	▲0.8	▲1.4	▲0.0	▲0.3	+0.2
17/06	▲0.023	(+1.6)	+0.119	(+1.70)	▲1.6	▲0.0	+0.1	▲0.1	▲0.7	+0.4	▲0.1	+0.2
17/07	+0.106	(+1.7)	+0.114	(+1.69)	▲0.1	+0.2	+0.1	+0.3	▲0.1	+0.4	▲0.1	+0.2
17/08	+0.402	(+1.9)	+0.248	(+1.68)	+2.8	+0.1	+0.4	+0.1	+1.4	+0.1	▲0.1	+0.4

(注) 括弧内は前年同月比

**8月の総合が前月比
+0.402%、コア指数
(コアインフレ)は
前月比+0.248%と加
速**

17年8月の消費者物価（総合）は、前月比+0.402%（前月同+0.106%）と市場予想（前月比+0.3%）を上回った。食料品が前月比+0.1%（前月同+0.2%）と鈍化した一方、エネルギーはガソリンや燃料油の大幅上昇で前月比+2.8%（前月同▲0.1%）と上昇に転じたうえ、エネルギー・食品を除く消費者物価（コアインフレ、コア指数）は前月比+0.248%（前月同+0.114%）と市場予想同+0.2%を小幅上回り、前月から加速した。

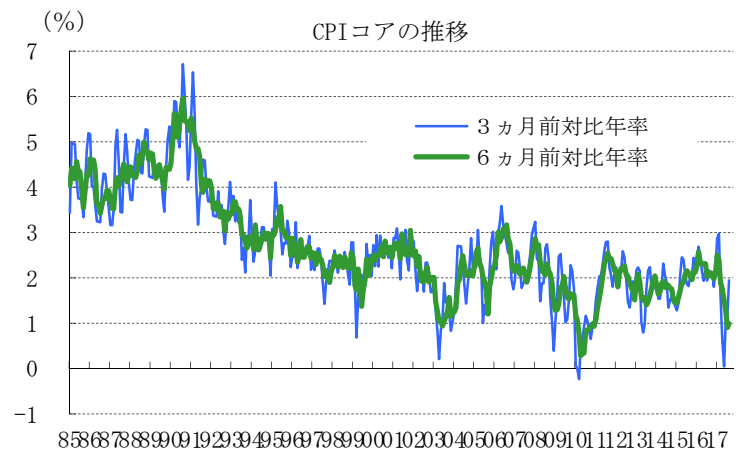
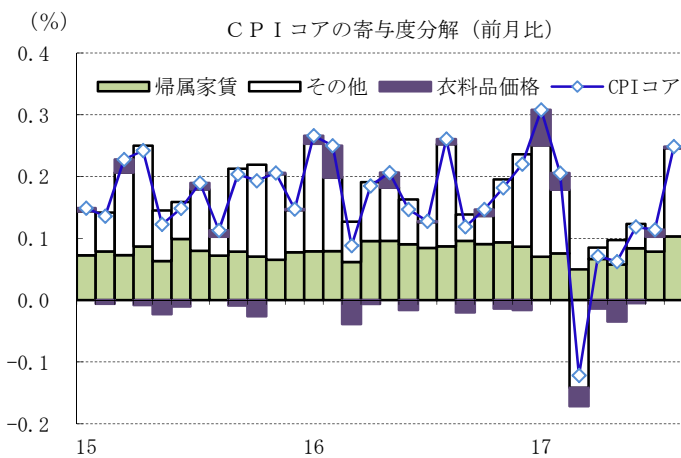
**8月は財価格の下落
が続かなかで、サー
ビス価格が上昇**

コアインフレでは、商品（財）が同率の下落幅となった一方で、サービスの伸び率は高まった。商品（財）価格は、自動車が横ばいに改善したほか、家庭用家具・備品が上昇に転じた一方、アパレルが鈍化したうえ、処方箋薬、IT関連商品、教育関連書籍、テレビやゲームなど娯楽商品等がドル高や価格競争によって下落したことで、前月比▲0.1%（前月同▲0.1%）と下落を続けた。

サービスに関しては、医療保険などを含む医療サービスが前月比+0.2%と低下したほか、レンタカーが同▲2.1%、航空運賃など公共サービスが同▲0.3%と下落に転じた。一方、携帯電話サービスは前月比▲0.1%（前月▲0.3%）と大幅な値引きの影響が薄れ下落幅を徐々に縮小している。また、変動の大きいホテル等宿泊費が前月比+5.1%、インターネットサービスは同+0.1%、カー・リースが同+0.1%と上昇に転じたほか、自動車保険、賃貸料が加速した。さらに、住宅価格の上昇を受けた帰属家賃や、需要の堅調なスポーツイベントや会員サービスなどを含む余暇サービスが高い伸びを維持したこと等を背景にサービスコアは前月比+0.4%（前月同+0.2%）と上昇した。

コアインフレのモメンタムは安定

コアインフレのモメンタムをみると、3ヵ月前対比年率で+1.9%（前月+1.2%）、6ヵ月前対比年率で+1.0%（前月+0.9%）と加速した。携帯サービスの価格引き下げなど一時的な要因で下ぶれていたが、影響が弱まっている。これらの要因を除けば中短期でのコアインフレの上昇モメンタムは安定的な水準を維持していたと判断される。



前年比では8月の総合指数が+1.9%、コア指数は+1.7%

8月の消費者物価動向を前年比でみると（以下、前年同月比）、総合が+1.9%と市場予想+1.8%を上回り、前月の+1.7%から上昇した。食料品が+1.1%（前月+1.1%）、エネルギーが+6.4%（前月+3.4%）と上昇し、コア指数が+1.7%（前月+1.6%）と市場予想を上回った。

コアでは、財コアは▲0.9%と下落幅を拡大した。サービスコアでは、昨年急激に上昇した医療費の低下や携帯サービスの大幅な下落等によって押し下げ圧力の強い一方で、帰属家賃、賃料、自動車保険など需要の強い分野での上昇を背景に全体で+2.5%とプラス幅を小幅拡大した。また、より実態の物価動向を示す連鎖CPIコアは+1.5%（前月+1.4%）と小幅上昇した。

CPIコアは、年末に向けて上昇する見込み

8月の消費者物価統計（CPI）では、コア指数が前月比で上昇率を高めており、下げ止まりを示すものとなった。前年比では、医療費の下押し圧力が9月分まで強まるため、横ばい推移となろうが、10月分以降に下押し圧力が弱まるため、上昇すると予想される。ただし、緩やかな景気拡大、激しい価格競争、技術革新などを背景に、消費者物価（CPI）コアは中期的に前年比+2%程度での推移を続けると見込まれる。

